

# 学校読書活動の取組【亀岡市立亀岡小学校】

## 1 実践の見出し

「亀岡小学校の学校図書館の機能充実について—図書館教育の捉え方、読書活動推進の実践—」

## 2 学校の概況や児童生徒の様子等

亀岡市は、京都府のほぼ中央に位置し、保津峡・老ノ坂を隔てて京都市と隣り合っている盆地の町である。昭和45年頃より、近代産業・交通の発達に伴い、近畿産業圏のベッドタウンの一つとして、宅地造成が進められ、著しく人口が増加した。（現在の市の人口約88,000人）。

また、企業の進出や大型小売店・郊外型店舗の林立に伴い第2次・第3次産業への従事者が増え、大都市周辺の商工業地域としての都市を形成している。本校区も、昭和40年代よりさかんに宅地造成が行われるようになり、旧町周辺に新住宅地が形成された。それに伴う急激な児童増加のため、昭和50年につつじヶ丘小学校、昭和54年に城西小学校へと分離した。

最盛期には1,500名を数えていた児童数も徐々に減少し、今年度は519名（R4.2.25現在）となっている。本校校区である旧亀岡町は、明智光秀の築いた亀山城の城下町として古くから商業・経済・文化交流の中心地としての役割を果たしてきた。創立150年の本校の所在地、内丸町をはじめとして、旅籠町・追分町・塩屋町・呉服町などの地名に往時の姿を偲ぶことができる。また、学校周辺には、ガレリアかめおかをはじめ、市立図書館・市役所・消防署・警察署・総合福祉センターなど多くの公共施設が集中している。

## 3 実践内容

本校は児童につけたい4つの力（「自分の考えを持つ力」「自分を表現する力」「人を大切にする力」「チャレンジする力」）を掲げ、全教職員が意識して指導・支援に取り組んでいる。そしてこの4つの力を付けるために、全教職員が本校の読書に対する捉え方・考え方を共通確認し、自らが進んで読書ができるように教育環境を整え、図書館教育の充実を図っている。

### (1) 亀岡小学校における読書についての考え

本校では、読書は、「実用的な読書」と「感性を磨く読書」<sup>※1</sup>があることから、目的によって本の選び方、読み方は変わると捉え、次の2つのことを大切にしながら読書指導、読書活動を推進した。

#### ① 知りたいことを知ろうとするための活用

主に授業における国語科、社会科や総合的な学習の時間の調べ学習において、図書を利用した。

#### ② 読みたいと思う気持ちがあき上がるような活用

主には、図書室の学年の棚や先生のおすすめの本等、別置コーナーからおもしろそう本を読みたいと思う気持ち、国語科の文学教材等を中心に同じ作者の作品を読みたい、同じジャンルの本を読みたいと思う気持ちとなるような環境上の整備に取り組んだ。

こうした整備を進め、マイブックの取組や中間休み、昼休みの図書館利用等を積極的に進める取組をした。

<sup>※1</sup> 第5回子供の読書活動推進に関する有識者会議（文部科学省）

### (2) 読書活動がもたらす非認知能力の育成

読書においては①「意図したもの」、すなわち上述(1)のような目的を達成するための取組がある。もう一方で②「意図しないもの」、すなわち一冊を読破することや気になったことを話題にして仲間と対話すること等により生まれる「根気強さ・粘り強さ・自己肯定感・対話力・自分の言葉で表現する力・人とかかわる力・共感力・協調性等」の非認知能力の向上を図る取組である。これは取組当初、あまり意識しなかったことであったが、「新た

な学力分析の在り方に係る調査研究事業」から気付き、本校では、意図しなかった部分の効果も意識して取り組むように修正を加えた。

### (3) 能動的な読書について

○読書環境の整備については図書館推進委員の協力を得て取り組むことができた。

- ・ 図書資料の分類、配架の並べ替え(整理を含む)、見出し作り、学年毎の別置の図書コーナー、新しい本の別置コーナー(森林組合からの寄付本を含む)、図書ボランティアさんによる図書館案内作り、壁面の掲示・展示・装飾に取り組んだ。

○学年・学級の読書環境を学校外の施設(図書館)を活用して整えた。市立図書館と連携して学年貸し出しを実施、府立図書館と連携して団体貸し出しを利用、市立図書館巡回配本を活用した。

○児童と本を結ぶための方法として読書推進委員(図書館連携推進官)や担任が協力して取り組んだ。

- ・ 読み聞かせやブックトーク、読書へのアニメーション等、読書推進委員さんと連携をとり、子どもの実態、学習内容と合わせ授業の中や昼休み等に実施(1.2.3年で実施) また、授業で各担任が実施した。

○全校で取り組む読書活動を進めた。

- ・ 学年担任にお願いし、各学年の実態に合わせて、担任が選書し、購入計画をたてた。児童の興味関心のあつる本を図書ボランティアさんが選書して購入計画をたてた。先生おすすめの本の紹介を図書ボランティアさんと連携して実施し、それらの本を購入し、図書室の入り口に配架した。国語科で読書の時間を確保した。コロナ禍での中間休みや昼休みの図書室割り当てを工夫した。

### (4) 学校図書館の(読書)学習・情報センターとして機能を生かす。

学校図書館には3つのセンター機能がある。①読書センター②学習センター③情報センターである。

①読書センターとして「本を読むところ」「本を借りるところ」を児童に意識させ、積極的に図書室へ足を運ぶように促した。ただし、コロナ感染防止として密をさけるため一定の制限はせざるを得なかった。

②学習センターとしては「児童生徒の主体的・自発的な学習を助ける」「児童生徒が創作活動や学習発表を行う」「教職員が研究・授業設計・教材の製作を行う」ことを授業の中で取り組んだ。

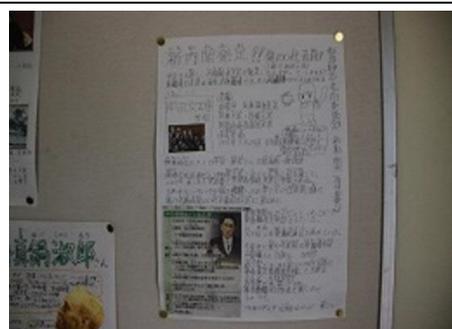
③情報センターとしては情報リテラシー(能力)を育成することに努めた。特に「何を学ぶかを自分自身で決める」「取り組むべき課題を自分で考える」「学ぶために必要なものを自分で探す。」「さまざまな情報メディアを活用する(以前に学んだことの正しさを疑う)」ことに取り組んだ。本校では、一人一台タブレットが配布されたため、タブレットを活用しながら、各学年の発達に応じた情報リテラシー指導を行った。例えば4年生の研究授業(コマーシャル作り)や6年生の携帯教室を挙げるができる。

## 【図書館設備・環境等】



絵本を読むコーナーでは、靴を脱いでリラックスしながら読書を楽しめます。

図書室には新聞の配架はありませんが、職員室でとっている新聞や家でとっている新聞、インターネットでの閲覧を利用しNIEに取り組んでいます。





図書室前の  
掲示板には、  
先生の「おす  
すすめの本」を  
示していま  
す。

「おすすめの  
本」は、いつ  
でも手にで  
きるように図  
書室入り口  
に置いてあり  
ます。



### 【読書推進環境・運営】



図書室だより



図書ボランティアさんによる  
新着図書のブックカバー作  
業



図書ボランティアさんによる  
図書室飾り



新刊の別置配架で興味を持つ  
ように工夫



市立図書館から借りた  
本



机の横にマイブック



学級文庫



伝記ものをまとめて置いて  
います。

### 【読書指導及び関連教科等での指導】



市立図書館の方による「ブ  
ックトーク」や「読み聞かせ」



読書のすすめ

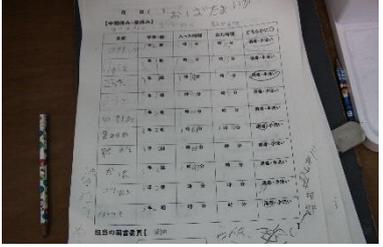
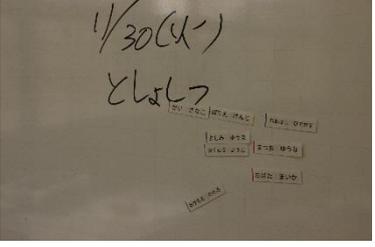


図書を活用しながらの課  
題解決学習(対話型)



図書室での学びを生かした  
生活単元学習

## 【児童の主体的な読書・図書活動】

 <p>図書委員の活動</p>	 <p>友達と一緒に図書室へ</p>	 <p>読みたい本を探す児童</p>
 <p>中間休み、昼休みの来室記録</p>	 <p>曜日ごとに貸出しボックスがあり、カードに借りる本を記入する。</p>	 <p>コロナ感染防止のため、学級の中でこの日に図書室が使えるのは7名だけ。</p>

## 【来室人数と貸出冊数の変化(令和2年度と令和3年度)】

来室数 (月別)													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	0	0	258	255	54	250	266	245	257	211	170	255	2221
令和3年度	171	229	259	259	0	219	269	244	269	198	147	-	2005

貸し出し冊数 (月別)													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	0	0	516	510	124	750	744	710	771	443	374	765	6727
令和3年度	342	503	595	554	0	591	753	707	721	387	301	-	5454

### 4 成果と課題(成果:○、課題:▲)

- 学習活動において、図書で集めた情報を活用して、「調べ学習」や「課題解決型の学習(対話型)」につなげることができた。
- 粘り強く読書をする児童が増え、非認知能力の育成に結果として働いたと思われる。
- コロナ禍で図書館の利用制限があったため、令和2年度と比較して来室状況は伸びたが(2月までで比較)、貸出冊数は例年並みとなった。しかし各教室に市立図書館から借りた本やマイブック等による読書のすすめを学校全体として取り組んだことから、読書離れの防止はできていると考えられる。
- ▲パソコンを用いてバーコードによる貸し出しの管理システムを整える必要がある。
- ▲コロナ禍のため、①入室制限をせざる得ないこと、②返却された図書を机に並べて一晩干す作業(土、日に実施)が必要となり、返却された本をすぐに貸し出すことができない。
- ▲2学期からの新たな取組の検討・実施が難しかった。

### 5 その他

図書館の機能充実と認知能力としての学力の相関については何らかの関係性が認められそうであるが、エビデンスベースで調査することに取り組めていない。